1年国語科　学習指導案　授業者　藤倉遼介

1　単元の概要

単元名　キャラクターの名前を考えよう！

複数の根拠を関係づけながらキャラクターに名前を付ける活動を通し、自分の持つ言葉へのイメージを広げ、言語感覚を豊かに育むことを目指します。また、名づけの理由を伝えあいながらお互いの言語感覚の共通性や差異を感じて、相手を尊重する態度を育てます。

	目標	評価規準	評価資料
知識技能	音声の働きや仕組みについて，理解を深め言語感覚を磨く。【(1)ア】	感じた言葉の響きを、音象徴と結びつけながら名前を付けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	ワークシート
思考判断表現	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。【Aウ】	複数の根拠を関係付けながら、名づけの意図を相手に伝えている。	ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値に気付くとともに、自らの言語経験を活かしながら、言語感覚を豊かにしようとする。	これまでの言語経験を振り返りながら、音象徴をとらえ、生かしながら名前を考えてようとしている。	毎時間のふりかえり

2　単元の展開

単元の流れ（全１時間）

1	・クラスメイトが持ち寄ったキャラクターの名前とその理由を考え、伝え合う。
2	・学年キャラクターに名前を付ける。 ・その理由を伝え合う。 ・クラスで命名案を一つ決める。

本時の流れ（1/2）

本時の目標
ことばのイメージをふくらませ、キャラクターに名前を付け、伝え合う。

1. 学習の見通し（学年キャラクターに名前をつける）を持つ。（５分）
2. 日本カラーデザイン言語スケール等を参考にしながら、見た目の特徴などを踏まえ、班員が持ち寄ったキャラクターに名前を付ける。【個人】（15分）
3. はじめに名前だけを伝え、班員にその意図を当ててもらう。【班】。（15分）
4. 「音象徴」を知り、自分たちで考えたことと比べる。（10分）
5. 授業のふりかえりを書く。（5分）

本授業で育てたいグローバル・コンピテンス

この学習課題に取り組む	ことで → こんな学習者の姿が生まれる
キャラクターの名前を考え、その意図を伝え合う。	生徒がこれまでの言語経験を生かしながら、自分の言語感覚を豊かにする姿。また、他者の言語感覚に触れることで、自分との今日う通性や差異を感じながら他者を尊重する姿。

焦点化して育みたいグローバル・コンピテンス

定義	【グローバルな問題の発見・検討】 地域、世界、異文化間の問題を検討し、 【異文化・他者理解】 他者の視点と世界観を理解し認め、 【異文化間交流】 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持ち 【企画・行動】 共同体の幸福（ウェルビーイング）と持続可能な開発のために行動する能力			
要素	知識	スキル	価値観	態度
	グローバルな問題や、異文化理解に関する知識。 1. 地理的知識 2. 歴史的知識 3. 社会・文化的知識 4. 経済的知識	異文化間コミュニケーションや、グローバルな問題の解決、批判的思考などのスキル 1. 異文化間コミュニケーションスキル 2. 問題解決スキル 3. 批判的思考スキル	異なる文化を持つ人々との協力と対話を促進する価値観 1. 公平性と公正性 2. 持続可能性 3. 平和（対話・協力・共存）	異文化、他者への理解と尊重を深める積極的な態度 1. 開放的で柔軟な態度 2. 他者を尊重する態度 3. 社会的・環境的責任を果たす責任感

「学年シンボルのキャラクターに名前を付けよう！」

キーワード：言語感覚、語感、音象徴、オノマトペ、語彙

～これまでの言語経験を生かし、他者の言語感覚に触れ、自分の言語感覚を育てる。～

【前提：グローバル・コンピテンスとのかかわりとして】

〇言語は文化を反映する。
例えば助数詞。助数詞を持つ言語間でも、切り分けは異なる。
なにを重視しているか、何を同一・差異ととらえるか、ものの見方が異なるといえる。

〇これまで異なる地域で言語経験をしてきた竹組で「音象徴」を用いた実践をおこなうことでで、言語間の共通性・差異に気づき、異文化理解の一助となるのではないか、また、個人の言語感覚の共通性・差異に気づくことで他者を尊重する態度を育めるのではないか、という視点から構想した。

●**実践の中で活用する「音象徴」**の例として

・タケテ＝マルマ実験、キキ＝ブーバ実験
：子音による硬さ・鋭さのイメージ【阻害音・今日鳴音】
・ミル＝マル実験：母音による大きさのイメージ
・濁音減価：濁音に対してのイメージ(価値が減る＝マイナスイメージ)